

ラボへの入居によって 新しいビジネスモデルを構築、実践

製品開発支援ラボに入居されている企業をご紹介しますシリーズ第5回目は、サンケイエンジニアリング有限会社にご登場いただきました。入居して2年を迎えた同社は、自社製品である加熱機器や過熱蒸気発生機器の開発はもちろんのこと、「お客さまの製品開発支援をワンストップソリューションで行うビジネスモデルの構築」という面でも、ラボを有効活用されています。

サンケイエンジニアリング有限会社



サンケイエンジニアリング有限会社
代表取締役 土場 義浩さん

お客さまの製品開発から設備製作まで、 一手に引き受けるのが役どころ

弊社は、加熱機器や過熱蒸気発生機器の製造のほか、お客さまのご要望や悩みを聞き、課題の解決が可能かどうかをジャッジして、可能であれば設計、試作、実験、設備の製作までを一手に引き受けるという開発業務を行っています。そのためには、お客さまとの打ち合わせや実験・試作などができる「ものづくり」の現場となる場所が必要でした。お客さまの視点で考えると、新幹線や飛行機に乗るまでの時間を利用して、展示会が年中開かれている東京ビッグサイトから気軽に立ち寄れる拠点を探していたところ、東京都中小企業振興公社が発行している冊子で入居企業の募集案内を見つけました。まさにグッドタイミングでした。



サンケイエンジニアリング(有)の過熱蒸気発生装置
「SHS Compo S4」

何かわからないものを具現化する環境が、ここにはある

ものづくりと一口に言っても、「創る」「作る」「造る」の3つの「つくる」があると思っています。弊社は「創る」領域で、無いものを形にするのが仕事です。形にするためには、測定や分析、試験、工作などといった設備が必要です。弊社は幅広い業種のお客さまを抱えていますので、それぞれの分野の機器や技術者をいくらか揃えても足りません。その点については、都産技研のラボに入居していることで、高精度の機器をスピーディーに活用でき、専門の研究員が間近にいらっしゃいますので、例えばお客さまと打ち合わせをしていて「温度分布を見たい」と言われれば、「じゃあサーモグラフィで見ましょう」と、その場ですぐに答えを出せます。展示会から立ち寄るお客さまは、決裁権のある上司の方とご一緒の場合も多いので、商談も早く助かっています。

24時間利用可能というのもありがたいです。金曜日の夜にお客さまから試験などの依頼をいただくことが多いのですが、土日作業をして、データや試料を発送しておいて、お客さまが月曜日に出社したときには届いているように、最速最短のサービスを提供できるわけです。このようなビジネスモデルを構築できたことは、ラボ入居の最大のメリットだと思っています。



実験を行う土場さん

ラボに入居して会社としても成長

とにかく設備が充実しているので、使いきれないところもたくさんあって歯がゆいくらいです。普通の図書館では見ることのできない、技術論文や最新動向の文献がずらっと並ぶ図書室も、お客さまとの打ち合わせの前に予習ができるので重宝しています。入居して会社としても成長しましたので、期限が切れる日が来るのが、今から心配なくらいです。